

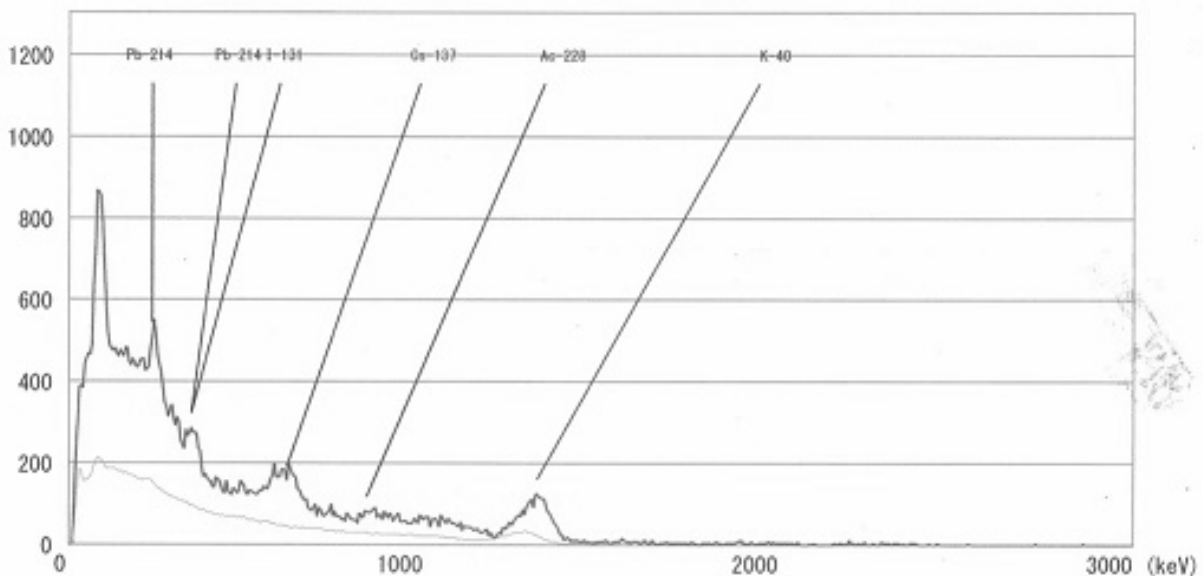


気になる測定結果

【30年前～40年前の火鉢の灰】

測定日2017年5月14日 重量405g 測定時間1800秒

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs137	67.1Bq/kg	±16.7Bq/kg	14.4%	8.22Bq/kg	あり
検出	Cs134	40.2Bq/kg	±11.1Bq/kg	19.0%	7.60Bq/kg	なし
検出	K40	1710Bq/kg	±360Bq/kg	6.1%	95.4Bq/kg	あり



5月14日（日）に呉竹文化センターで5周年記念総会、集会イベントが開催されました。

丹波橋測定室では「お茶会」と「無料測定会」を行いました。驚いた結果の出た試料がありました。

それは火鉢の灰で、依頼主の近所に住まわれている60代の方が20代の頃に使用して30年～40年ずっと使わずにしまわれていたもので詳細な年数や木の産地は不明です。何と約67ベクレル/kgの放射性セシウム137が検出されました。

最初はとてもびっくりしましたが落ち着いて考えると、セシウム137の半減期は30年なので当時のこの灰の値は、ざっと計算して150ベクレル/kgくらいだったと思われます。すると元々の木の汚染が一桁台から0.0何ベクレルかの汚染になります。

不可思議な話では無く、核実験や核事故によって汚染された中で、知らず知らずのうちに子供時代を過ごしてきたのだな～と実感しました。（楠本）

この報告を聞いてびっくりしましたが、去年7月に測ったストーブ用木質ペレット（長野産）の灰が、セシウム137が196ベクレル/kgだったのと合致するので、納得しました。

今回の灰も去年の灰もセシウム134は数値が出ましたがスペクトル上のピークなし。今回のスペクトルでは鉛などの天然核種が表示されていますので、その影響で134の数値が出たのでしょう。（佐藤）